

授業概要

第6回目までは、主として教育社会学の方法論と教育が果たす社会的役割について講義する。その基礎的知識をもって、第7回からは具体的な教育言説について講義する。その際、常に「私」から教育を語るのではなく、「社会」から教育を語る方法を追究する。また第14回と第15回は、教職と本授業の関連性を確認しつつ、全授業を振り返る作業を行う。

授業計画

第1回	授業ガイダンス 授業内容の説明・授業方法の説明
第2回	教育社会学の誕生（教育社会学の歴史と思想）
第3回	教育の社会的機能①（社会化概念の説明とその機能）
第4回	教育の社会的機能②（選抜と配分の機能）
第5回	教育と社会階層
第6回	教育と社会移動
第7回	教育言説の検討①（青少年の「問題化」の視点）
第8回	教育言説の検討②（学力低下の「問題化」の視点）
第9回	教育言説の検討③（教員の質の「問題化」の視点）
第10回	日本の教育システム①（学校教育―教員文化）
第11回	日本の教育システム②（学校教育―生徒文化）
第12回	日本の教育システム③（家庭教育―ジェンダー形成）
第13回	日本の教育システム④（家庭教育―文化資本論）
第14回	教職における教育社会学の意義（社会と教育の関連性の確認）
第15回	教育社会学から「教育」を考える（教育社会学の授業内容と経験知としての「教育」との比較）
第16回	筆記試験

到達目標

教職を目指す学生にとって教育は、「どんな教育をしよう」「生徒とどのように信頼関係を築こう」といった教育者と学習者の二者関係において想像されることが多い。しかし教育社会学とは、教育をそのような個人の営みや個人の意志力・努力を中心に考える学問領域ではない。教育社会学は、教育を社会との関係において考察する学問領域である。この学問的領域の意義をしっかりと把握し、その学習が、教職にどのような意味を持ちえているのかを理解するのが本授業の到達目標である。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習復習

予習：授業の最後に示された次回の内容について、参考文献等を読んでおくこと。
復習：毎回の授業で出題された課題を確認し、理解ができていない場合には、プリントに示されている参考文献等をもう一度確認しておくこと。

評価方法

授業への参加態度・提出物の内容・学期末のテスト、これらを総合して判断する。
教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行っている。注意すること。
なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。

テキスト

毎回プリントを配布する。